



寺崎支部

笠間市社会福祉協議会

「しんこう会」だより

第3号

世界遺産「富岡製紙場」を訪ねて

寺崎女性学級長 小嶋 敏子

10月29日(火) 好天の下、私達女性学級会員22名は、一路富岡へと出発しました。富岡製紙場は、近代産業遺産として日本初の世界遺産という事で大注目されているスポットです。団体旅行では、今一番予約が取れない観光地と言われていますが、支部長のお骨折りで早くから申し込みする事が出来ました。ありがとうございます。

研修旅行の往路は、ラスク工場の見学と昼食とを先に終えて12:10~14:00までの時間限定の製紙場見学です。私達も到着するや、1人1台ずつ音声ガイドをあてがわれてのフリー見学です。(ポランディアガイドの方が間に合わないそうです)まず、工場の規模の大きさにびっくりしました。当時から世界最大の近代的工場だったそうですが、今でも色あせる事なく、整然と並んだ機械や設備をみると当時の女性が、生き生きと働いている様子が目に浮かぶような感じがしました。又、笠間でも昔から養蚕が盛んでしたから、展示物でも身近に感じられる物が多くありました。さすが、昭和62年まで百年以上も操業していたという実績と歴史を感じる事ができました。それを大事に保存してきたという事に感動しました。

復路は、軽井沢の雲場池の紅葉を楽しみ、バスの中でのビンゴゲームなど会員相互、親睦を深めた研修旅行でした。



地域交流事業「鎌倉散策」

寺崎支部社協「しんこう会」会計 田口 孝市

11月9日地域交流事業として、鎌倉散策を実施致しました。絶好の行楽日和に参加者45名、笠間公民館前を7時30分に出発し、常磐道・首都高湾岸線を南下し大黒埠頭PAで休憩し、最初の目的地であります建長寺に予定時刻より約1時間早く到着致しました。この寺は、鎌倉五山第一位の臨済宗・建長寺派の大本山です。北条時頼が123年に宋から来日していた高僧・蘭溪道隆を招いて建立したのが国最初の禅寺。鎌倉当時の伽藍配置は、総門、山門、仏殿、法堂などの建物が中軸上に並ぶ中国の禅様式の伽藍配置になっており荘厳なものでした。その後、数度の火災で、多くが焼失してしまいましたが江戸時代に沢庵和尚の進言で再建されました。境内を散策・参拝し、鎌倉五山等の歴史を学びました。次に、鶴岡八幡宮を参拝しました。鶴岡八幡宮は、源頼義が前九年の役で奥州の阿部氏を平定した後、治承4年源頼朝が鎌倉入りするや由比ヶ浜の八幡宮をこの地小林郷に移した。建久2年には武士の守護神の宗社に相応しく上下両宮の現在の姿に整えた。境内には、七五三を祝う親子連れが大勢いました。綺麗な着物姿の子供たちにカメラを向ける外国からの観光客もたくさんいたことが印象的でした。小町通りを中心に市街地を散策し、お土産を買ったり、美味しいもの、珍しいものを食べて有意義な時間を過ごせたと思います。続いて、鎌倉観光会館にて昼食をとり最後に、鎌倉大仏を参拝。鎌倉を代表する名所となっている長谷の高徳院の本尊である大仏は、鎌倉幕府第3代執権・北条泰時の晩年になってから作り始め、大仏開眼は1245年に行われた。この時、建立された大仏は木造であった。4年後の暴風雨のために倒壊したので、1252年にあらためて金剛の大仏が造営され始めた。明応四年の大津波で押し流され、以来、現在の様な露座の大仏となってしまった。本尊の大仏は阿彌陀如来。高さは12.38m、総重量121トンである。境内には常陸太田市の子供会が2m位ある大きなわらじが奉納されていた。

今回の研修は、多くの人と交流を図ることができました。今後も親交が深まることを期待しています。

